

令和3年 3月 30日

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 静岡県静岡市葵区追手町9-6  
管理機関名 静岡県教育委員会  
代表者名 木苗 直秀

令和2年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を、  
下記により提出します。

記

1 事業の実施期間

令和2年 4月 10日(契約締結日)～ 令和3年 3月 31日

2 指定校名・類型

学校名 静岡県立熱海高等学校

学校長名 石田 金也

類型 地域魅力化型

3 研究開発名

外部資源を有効に活用した、地域を担う「人財」の育成  
～地域に育ち、地域に育ててもらふキャリア教育～

4 研究開発概要

地元企業、自治体(熱海市)、熱海伊東法人会、地元小中学校、伊豆半島ジオパーク推進協議  
会等と連携・協働することにより、地域課題の解決等の探究的な学びを通して、地域への課題  
意識や貢献意識を高め、地域を担う「人財」の育成を図る。

5 学校設定教科・科目の開設、教育課程の特例の活用の有無

- ・学校設定教科・科目  開設している ・  開設していない
- ・教育課程の特例の活用  活用している ・  活用していない



令和3年2月13日 (書面開催)	第2回運営指導委員会 取組内容の説明、取組成果報告、課題解決についての助言、協議。
---------------------	--

②コアスクール情報交換会

活動日程	活動内容
令和2年6月15日 (書面開催)	令和2年度コアスクール情報交換会 各校取組状況、特徴的な取組に関する情報提供。
令和2年9月18日 (書面開催)	令和2年度コアスクール事業中間報告(資料公開) 取組状況の説明、成果指標と実績値の報告等。

10 研究開発の実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総合的な探究の時間における探究活動			1回	2回		1回	1回	2回	2回	2回		

(2) 実績の説明

①研究開発の内容や地域課題研究の内容について

- ・総合的な探究の時間における地域課題探究活動
- ・各教科における総合的な探究の時間および他教科と連動した取組
- ・コンソーシアムと連携した部活動の取組

②地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け(各教科・科目や総合的な学習(探究)の時間、学校設定教科・科目等)

- ・以下の探究的活動を総合的な探究の時間を活用して実施した。

1年次は「職業インタビュー」を通し、勤労観・職業観を育み、2学期より「地域社会の課題の一端を知り、その原因を探る方法や解決をしようとする姿勢を身に付ける段階」として「地域の課題を知り、自分たちなりに解を求め、発表する」ことをゴールとした課題探究活動(「熱高ラボ」)を実施した。

2年次では「地元自治体や企業の取組を参考に、高校生として地域で何ができるかについて自ら考え行動する力を養う段階」として、課題探究活動(「熱海ラボ」)を実施した。毎月1回、地域協働学習実施支援員が来校し、現状や課題の捉え方、問いの立て方を学習し、コンソーシアムを構成する企業等と対話等することにより課題解決探究活動に取り組んだ。

③地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ、教科等横断的な学習とする取組について

本年度はすべての教科において総合的な探究の時間や他教科等と連動した取組を試行することを目指している。以下はその例である。

(理科) 1年の「科学と人間生活」の授業において、避難所運営ゲームを取り入れ、災害時の対応の難しさや自主防災活動の重要性と難しさを体験する学習を実施した。

(英語) 1, 2年の「コミュニケーション英語」の授業内で熱海に関係のある英単語を使った英会話に通年で帯活動として取り組んだ。

(家庭) 1, 2年の「家庭総合」及び3年選択「フードデザイン」の授業で、校内マラソン大会に向けた食事のあり方を考え、体育の長距離走の授業に合わせて実践し、体調・体力の状況を実感する学習を行った。また、3年選択「フードデザイン」の授業で作成した、熱海特産品を活用して新たな調理法を提案した「食育カレンダー」を、英語の授業で英語

版に編集する学習を行った。

④類型毎の趣旨に応じた取組について

(商業) 2年の「ビジネス基礎」の授業内で熱海伊東法人会と協働し、熱海における起業についてグループワーク等を行った。また、3年の「観光資源」の授業内で「高校生ホテル&高校生エージェンツ」を実施した。さらに、3年の「商品開発」の授業内で「熱海レモン」を使った商品開発をJA等と協働して行った。

(福祉) 3年の「社会福祉基礎」の授業内において熱海市観光福祉マップの作成準備に取り組んだ。また、3年の「生活技術支援」の授業内において、熱海市の高齢化問題に対応するための介護食品開発プロジェクトに取り組んだ。

⑤成果の普及方法・実績について

- ・令和3年2月24日に研究成果発表会を実施し、事業の成果を発表した。
- ・研究成果をまとめた冊子や映像資料等を各高等学校に配布した(3月)。
- ・取組内容を頻繁に報道提供し、新聞やテレビ等マスコミに取り上げてもらい事業の広報に努めた。
- ・取組内容をまとめた広報誌を隔月で発行し、熱海市内の各自治会に対し回覧版により広報した。

1 1 目標の進捗状況, 成果, 評価

目標設定シートに記載した評価指標について、2020年度における数値は下記のとおりである。

- ・本構想の取組により自分なりに地域課題を認識し、解決する意欲をもって取り組むことができた生徒の割合 【90.6%】
- ・卒業後、地域に留まるまたは将来戻るつもりであると回答する生徒の割合 【80%】
- ・本構想の取組において、探究的な学びを実現する学習を通じで地域課題に取り組む生徒の人数 【223人(100%)】
- ・本構想の趣旨を理解し、意欲的に取り組む教員の割合 【100%】
- ・地域で行われる活動に進んで参加している生徒の割合 【40.2%】
- ・地域貢献活動を本校に対し依頼する事業所等の数 【20】

聞き取り等アンケートを通じて確認できた意欲的に取り組む教員の割合は100%であった。

この数値からも分かるように研究初年度に構築された本構想に教職員が一丸となって取り組む機運が維持されていると見ることができ、探究、評価、連携、教科等の各グループにおいて教員が主体的に事業に取り組んだことにより、活動の制限が大きかった中でも生徒の変容に繋がったと思われる。

2年目については年度替わりで多数の教員異動があったことに加え、新型コロナウイルス感染症の拡大防止を優先し、地域に出る学習活動が大幅に制限された。そのような中でも地域とそこで活動する人々の姿について知り、地域課題を自分事とする学びは、生徒に地域社会や自分自信の生き方あり方を考えさせ、成長させる力となっていると感じられる。

<添付資料> 目標設定シート

1 2 次年度以降の課題及び改善点

総合的な探究の時間については、初年度に取り組んだ地域の団体、企業等との協働による地域課題探究活動を生徒に体験させたい。地域の大人とコミュニケーションを取り、現実の課題解決に挑んでいく経験は、生徒の自己肯定感を高めるのに有効であると実感されている。

併せて各教科においても、教科横断的な学習の実践事例を増やし、深い学びによって探求力

を高め、自発性・協調性を備え「主体性のある人材」を育む道筋を広げたい。

そして、本年度は商業、福祉の実習的科目において適用を試みている「主体性」を基軸とした評価を行うための評価基準の検証、改善を推進することが課題である。

**【担当者】**

担当課	高校教育課	TEL	054-221-3146
氏名	片井 伴浩	FAX	054-251-8685
職名	教育主査	e-mail	kyoui_koko@pref.shizuoka.lg.jp